

縄文女子の妄想トーク

今回の妄想トークのメンバーは…



20年前から北海道の縄文PRIに力を注ぐ、縄文沼の女神様



縄文人の技に感動し、縄文愛に目覚め、現在布教(普及)活動中 No BEER No LIFE !!



縄文とカエルをこよなく愛し、オリジナルグッズ販売やイベント主催などで大活躍



縄文大好きな2児の母身近なところに縄文を見つけては日々親子で楽しんでいる



今回はオマケ要員として、ちよいちよい発言してます!

オマケのドニワ女子

縄文人にとっての「いのち」

- 前回はストーンサークルに関連して、縄文人の出会い、恋愛、出産のことを妄想したけど、今回はその続き、特に「いのち」について妄想していきますよ!
- 当時は、毎日の暮らしの中で、病気にかかったり、野山でけがをしたり、獣に襲われることもあったわよね。
- 自然災害だってあるし。この時代の子供たちが無事に大人になるのは、すごく大変なことだったんじゃないかしら。
- 今みたいな医療もないしね…。
- 土偶って、最初は単純に「カワイイ!」って軽い気持ちで見てたけど、最近はずっと切実なメッセージが込められていたのかもって考えちゃうわよね。
- 土偶や土器…、遺跡には「いのち」にかかわるいろんなモノがあったわね。
- あのお乳を飲ませている土偶にはグツときたよ(p2)。赤ちゃんの優しい抱き方! 母親のあふれる愛情を感じるわ。
- 前回「健康なお母さんは授乳係だったかも…」ってトークしたけれど、その説もほんとにあるみたいよ。
- え! 私たちってばすごい妄想力! 確かに大きなおっぱいの土偶たくさんあるよね。うらやましい…。

- 岩手県一戸町の「縄文ばいん」(p2)。ばいんはおっぱいたくさん出る母の印! 名付け親さんのセンスがサイコーよね!
- それに今のところの日本最古の土偶もおっぱいだよ!
- おっぱい大事~!!!
- 出産シーンの土器もすごいよね (p2)。赤ちゃんが「こんにちは」って出てくる瞬間の誕生の喜びが伝わってくるわよね。
- 一方で亡くなった時の悲しみも…。
- 亡くなった子の足形をつけた「足形付土版」(p2)を、その後家の中につるしてずっと一緒に暮らしていたって話、何度聞いても思わず涙がでちゃう!
- 高砂貝塚のお墓からは、妊婦さんとお腹の中の赤ちゃんの小さな骨も一緒に見つかったの(p2)。普通のお墓と比べてとても丁寧に埋葬されていたらしいわ。悲しみの大きさが伝わるわね。
- 子供を大切に思う気持ちって、今も昔も変わらないのね…。
- 今以上に切実だったのかも。小さなムラでは、一人でも多くの子供たちがしっかり成長して、そのムラを守り繋いでいくという責任があったんじゃないかしら。

- そのためには、より健康で強い子供を産む必要があったはず。
- サラブレッドのタネ馬みたいな感じ? 遺伝子って概念はないだろうけど、優秀な子孫を残すために、狩りが上手で強い男性、安産の女性や妊娠した女性は、ムラとして特に大事にされたのかもしれないわね。
- え、待って。好きな人が違う女性と子供を作ることもあるってこと? 私だったらそんなの絶対に嫌~! 泣
- 小さな命が失われる場面に何度も直面したからこそ、元気な子を産むことにこだわっていたのかもね。大きな家族とも言えるムラを守っていくためなら人は強くなれる。それは浮気でもないし、野蛮でもない。だからジェラシーとかしなかった!…のかも。いや納得してても嫉妬はするかもね~。
- ムラのためなら! でも切なさすぎる…。
- 私が「ラブラブ江別」って勝手に名付けている土偶は、男女のペアなんだって。お墓の中に重なり合って置かれていたって言うから、また新たな命が生まれることを願っていたのかなと思って。
- クルミを割ったりお肉をすりつぶすための道具「すり石」と「石皿」の関係にもびっくりよね! (p3) 「すり石」は男性、「石皿」は女性を表していて、男性のお墓には女性である石皿が、女性のお墓には男性であるすり石と一緒に埋葬されているんだって!
- お墓の中でも男女は一緒に、新たな命がまた生まれるように…という願いを込めたのかしらね。深いわね…。

- 土偶は女性のモチーフが多いけれど、男性のがモチーフの遺物は「石棒」があるよね。美しく磨かれた棒もあれば、縄文時代には珍しく、恥ずかしくなっちゃう程リアルな造形も…ゴクリ
- キウス周堤墓から出土した石棒は、長さが60cmもあって、左右対称に磨かれ、先端にはかっこいい模様もついているのよね! 機械もないのに手作業でどうやって作ったんだろ? 時間もすごくかかるだろうし。
- そこまでしてでも、どうしても作る必要がある大切なものだったのね。
- どんな遺物でもあまりエッチな気持ちで見ないでほしいの。いのちを繋いでいくことに真摯に向き合う縄文人の気持ちを少しでも感じ取れたらいいわよね。
- 厳しい環境の中で、縄文時代の人たちにとって「子作り・子育て」はムラのみんなの大事な共同作業だったのね。
- 子供は「夫婦の子供」であり同時に「ムラの子供」。みんなで役割分担してね。「むらむら担当」のモテモテお兄さんとか、「おっぱい係」のばいんなお母さんとか。
- 危険や不安もいっぱいあったけれど、喜びも悲しみもみんなと一緒に味わったんだろね。勇気づけあって。
- ある意味、今よりも「生きやすい」世の中だったのかも。私、早く帰って子供をぎゅって抱きしめたくなっちゃった!
- たくさんぎゅってしてあげて! 私たちは縄文人のDNAの12%を受け継いでいるんだもの、きっと共感できる部分も多いはず。改めて「いのち」を大切にしましょう。(次回につづく)

★【縄文女子の妄想トーク】は、縄文をこよなく愛する縄文女子たちの個人の主観に基づく妄想トークがメインになっています。学術的に正しいかどうかは置いておいて、素人目線の「こうだったのかな」「こうだったらいいな」という妄想ワールドを、どうか生暖かい目で楽しんでいただけたら嬉しいです。